科目名			担当教員	
臨床心理学			清水　めぐみ	
科目コード	単位数	スクーリング単位	履修方法	配当年次
FF3503 FF3564	4	1（注）	RorSR（講義）	2年以上
生成AI利用レベル		レポート　：　C	試験（スクーリング含む）　：　C	

※2017年度以前に入学した方が対象の科目です。2018年度以降に入学した方は履修登録できません。
※2018年度以降に入学した方は、「臨床心理学概論Ⅰ」（科目コード：FF3552、2単位、履修方法：RorSR）を参照してください。
（注）2019年度のスクーリングより、スクーリング単位1単位（8コマ）に変更されました。
科目コード　FF3503　2018年までのスクーリング受講者（スクーリング単位2単位）
FF3564　上記以外の方（スクーリング単位1単位）

科目の概要

■科目の内容

臨床心理学（clinical psychology）の「臨床」という語は、ギリシャ語の「寝台（クリネー）」から生じた語といわれています。かの時代に僧侶らが、死を目前にして苦しむ者に手を差し伸べ、魂の世話をしたことに由来すると見る人もいます。魂の世話（卑近なことばでいえば心のケア）が必要なのは、何も死を目前にしている人たちだけではないと現代では考えられています。人はだれもが、苦しみを抱え、ときに抱えきれずに立ちつくすことがあるものです。そのようなときに、その人が自分らしい未知を歩き出すために心理学的な援助を提供するという実践的な目的を持っているのが臨床心理学です。まずは、臨床心理学が何であるのかを概観してみましょう。この段階で、現在に至る臨床心理学の成り立ちを俯瞰して、臨床心理学の成り立ちについて学びます。

ところで、では心理学的な援助はどのように提供することができるでしょうか。どんな人にどんな援助が適切かを見極めることも必要です。とすると、相手について理解しようとすることが不可欠ですから、次に、そのための「臨床心理アセスメント」について学びます。そして、19世紀以降発展してきた臨床心理学の理論を学ぶことで、心理学的な援助の礎となる考え方を概観します。これらを通じて、自分自身を理解しようとする姿勢を培い、自分の心を通じて他者を理解していこうとすることについて理解を深めていきます。

■到達目標

1）臨床心理学の成り立ちについて、説明することができる。
2）臨床心理学の代表的な理論を説明することができる。

■学位授与の方針（ディプロマポリシー）との関連

とくに「人間理解力」を身につけてほしい。

■科目評価基準

レポート評価30%＋スクーリング評価 or 科目修了試験70%

■教科書・参考図書

【教科書】

杉江　征・青木佐奈枝編『スタンダード　臨床心理学』サイエンス社、2015 年

（最近の教科書変更時期）2017 年 4 月

（スクーリング時の教科書）上記教科書は必ず持参してください。

【参考図書】

１）伊藤良子編著『臨床心理学ー全体的存在として人間を理解する』ミネルヴァ書房、2009 年

２）カーン著（妙木浩之監訳）『ベイシック・フロイト』岩崎学術出版社、2017 年

３）沼　初枝著『臨床心理アセスメントの基礎』ナカニシヤ出版、2010 年

■受講上の注意

臨床心理学は心理学の応用分野の科目です。心理学の基礎的な理論を十分に消化してから受講してください。

スクーリング

■スクーリング受講にあたっての留意事項

当科目のスクーリングは、受講申込締切日までに、「福祉心理学」「心理学概論Ａ・Ｂ」などの基礎的な科目のスクーリングを受講（またはレポートを提出）してからの受講をお奨めいたします。

■スクーリングで学んでほしいこと

心理臨床の実践では、他者と場を共有することであらゆる感覚を駆使し、そこで伝達されるものが重視されます。スクーリングでは、あらゆる感覚を駆使して臨床心理学のさまざまな方法論や理論を学ぶことはもちろんのこと、自分の心を通じて他者を理解しようすることがどのようなことであるのか体得するための糸口をつかむ機会としていただきたいと考えています。

■講義内容

回数	テーマ	内容
1	臨床心理学とは	臨床心理学の歴史、特色、実践領域
2	臨床心理学の柱１　―心理療法	心理療法（心理カウンセリング）
3	臨床心理学の柱２　―アセスメント	臨床心理アセスメント
4	代表的な理論１　―精神分析・力動論	精神分析を中心とした力動論
5	精神力動的な発達理論	精神分析理論に基づく発達論
6	代表的な理論２　―行動論・認知論	学習理論などに基づく行動論・認知論
7	代表的な理論３　―人間性心理療法	来訪者中心療法の理論と発展
8	臨床心理学の論理	援助専門家の「力」と「善意」の功罪
9	スクーリング試験	

■講義の進め方

パワーポイントおよび配付資料を中心に講義を進めます。また、教科書を参照します。

■スクーリング　評価基準

スクーリング初日に試験問題を提示します。講義で得たことを消化して自分のことばで記述することを評価します（持込不可）

■スクーリング事前学習（学習時間の目安：5～10 時間）

教科書を概読し、講義内容の関心あるテーマについて、自分なりに学びたいことを思い描いてきてください。

■スクーリング事後学習（学習時間の目安：20～25 時間）

スクーリング受講後速やかにレポート学習に取り組んでください。

レポート学習

■在宅学習 15 のポイント

回数	テーマ	学習内容・キーワード	学びのポイント
1	臨床心理学とは（第１章１・1、１・2）	臨床心理学とは何であるのか。成り立ちと展開から概観し、理解する。	臨床心理学とはどのような学問であるのかを理解する。
2	臨床心理学の研究法（第１章１・3、１・4）	臨床心理学の研究法・方法論と臨床心理学に包含される心理学について知り、理解する。	臨床心理学の基盤にある方法論を理解する。
3	臨床心理学の基盤にある方法論を理解する。	臨床心理アセスメントの方法と視点を概観し、理解する。	臨床心理アセスメントとはどのような営為であるのかを理解する。
4	心理検査法（第３章）	臨床心理アセスメントのうち特に心理検査法について概観し、その使用に際しての留意点も含めて理解する。	心理検査法の成り立ち、種類、使用に際しての注意点を把握する。
5	精神分析・力動論（フロイト）（第４章）	力動的な観点から心を理解するための概念について概観し、理解する。	フロイトに先んじる思想、フロイトの理論、フロイト後の展開を把握する。
6	行動論・認知論（第５章）	いわゆる心理学的な理論から展開した、行動の変容のための理論と方法を概観し、理解する。	学習理論から認知療法への展開を理解し、さまざまな方法の背景にある理論を把握する。
7	人間性心理療法・来談者中心療法（第６章）	来談者中心療法の成り立ちとその人間観と理論を概観し、その後の展開も含めて理解する。	来談者中心療法について知り、その方法を学ぶ。
8	催眠とそこから生まれた療法（第７章）	心理療法の源流としての催眠について概観し、催眠から発展した方法を知り、理解する。	催眠の歴史と展開について、歴史的な視点から学ぶ。
9	多様な心理療法（第８章）	第５回から第８回までで触れられなかった心理療法のいくつかについて学び、理解する。	対人関係をキーワードとして、多様な心理療法について知る。

10	教育・子育て領域における心理支援 （第９章）	教育・子育ての領域における心理支援について、その領域の特徴を踏まえた方法を知り、理解する。	心理支援における周辺環境との関わりの視点を持ち、支援の特徴を知る。
11	医療領域における心理支援 （第 10 章）	医療領域における心理支援の実際について知り、その活動内容を概観し理解する。	チームにおける専門家としての位置づけと技能、チームワークについて知る。
12	産業・司法領域における心理支援 （第 11 章）	産業領域、司法領域それぞれの心理支援の実際について知り、この領域における臨床心理学の役割について理解する。	他職種との連携における心理支援の課題について考え、心理支援活動の倫理について理解する。
13	臨床心理領域の知識と活用 （第 12 章）	臨床心理学に関連する学際領域のいくつかを知る。特に、倫理について考え、理解する。	臨床心理学に関わる法律のいくつかの事項を知り、特に倫理面について把握する。
14	まとめ① 臨床心理学とライフサイクル	臨床心理アセスメントと心理療法のつながりを知り、理解する。	臨床心理アセスメントと心理療法の基盤をなす人間理解の理論とのつながりを理解する。
15	まとめ② 心理臨床の実践領域	各実践領域に共通する課題と問題点を挙げ、心理臨床における留意点を理解する。	実際の心理支援における姿勢を理解する。

■レポート課題

１単位め	「TFU オンデマンド」上で客観式レポートに解答してください。
２単位め	「TFU オンデマンド」上で客観式レポートに解答してください。
３単位め	「（心理的）アセスメント」とは何であるかを記述したうえで、その主たる３つの方法を挙げ、それぞれについて説明してください。また、医療領域における心理アセスメントにおいて、心理検査が使われる状況をひとつ想定し、その際に使用する心理検査を心理アセスメントの目的に合わせて選択し、それを選択した理由を述べよ。
４単位め	会議を「はじめます」と言うべきところを「おわります」と言ってしまった場面を想定し、精神分析の第一局所論に基づき「意識」と「無意識」の二語を使用し、加えてここで作用している防衛機制についても言及しつつ、このような言い間違いが生じた心の動きを説明してください。さらに、会議中に眠気に襲われた場面を想定し、精神分析の第二局所論（構造論）に基づき「自我」「エス」「超自我」のそれぞれの動きを説明し、この状況に折り合いがつくまでの過程を記述してください。

※提出されたレポートは添削指導を行い返却します。

■アドバイス

出典の明示なく教科書からの抜粋を記述しているものは、剽窃とみなされ、評価の対象になりません。引用する際には、ルールに則って記述し、必ず出典を明示してください。

まず、教科書全体にひととおり目をとおし、次いでレポート作成に必要と考えられる部分をよく読んでください。一つのレポート作成に教科書の複数の部分が関連しますので、全体を概観することが重要になります。「自分の」レポートを作成するために、教科書以外の複数の文献にあたって、教科書の記述を確認したり、新たな視点や考え方を得た上で、課題で求められている点をもらさずに、自分のことばで記述してください。

【１・２単位めアドバイス】

教科書をよく読み、「TFU オンデマンド」上で客観式レポートに解答してください。

【3 単位めアドバイス】

心理アセスメントについて、全体像を把握します。さらに医療領域における心理アセスメントについて、具体例を想定し、特に心理検査の必要な場面について考えます。心理検査の選択にあたっては、各心理検査の特徴を踏まえて、心理アセスメントの目的に合うかを考慮することになります。実際の心理アセスメントにおける心理検査の選択にあたっては、心理検査のどのような特徴からそれを選択したのかだけではなく、クライエントの状態や状況なども考慮する必要があります。

【4 単位めアドバイス】

精神分析の理論は、日常生活で垣間見られるさまざまなエピソードに反映されている人の心の動きを説明するのに有用です。そんなつもりではないのにやってしまったことを説明するために、第一局所論の観点を、そうするのは好ましくないことをしたくて仕方がないときの対処を説明するために、第二局所論の観点を用いて、それぞれ心にどのような動きが生じ、どのような過程を経ていくのかを記述しましょう。

■レポート　評価基準

複数の文献にあたって、自分のことばでまとめられたレポートを評価します。教科書以外の文献を参照していない場合や引用や要約の出典が明示されていない場合は再提出を求めます。

科目修了試験

■評価基準

臨床心理学を学んだことを通じて、学ぶ前に思い描いていたものとは異なる、実践にあたっての新たな視点や考え方が獲得されているかが問われます。教科書に記載されている学術用語を適宜用いて、正確に論述できているかという観点から評価します。